

はえ縄実習、釣果に勝る価値【水高記者DIARY】1月25日

地域 島根 石見

2024/2/5 (最終更新: 2024/2/5)

島根県水産練習船「神海丸」に乗り込み、ハワイ沖で実習に取り組む浜田水産高(浜田市)海洋技術科2年生、関蒼太郎さん(17)=広島市中区出身=が船上の日々を記します。



漁具を点検する関さん(右端)



**1月25日 北緯28度9分 東経164度
21分**

浜田を出港してから1週間がたちました。太平洋に入り、既にほぼ全員が船酔いから回復。スマートフォンの電波は届かなくなり、夕食後の食堂はボードゲームを楽しむ生徒でにぎわうようになりました。

今回は、これから実習するマグロはえ縄漁について少々お話していきたいと思います。

はえ縄とはどのような漁法なのか。簡単に説明すると、幹縄という太く長い縄と、幹縄に取り付けた無数の細かい針付きの縄、枝縄(通称ブラン)を海に沈めます。魚がかかるのを待って引き上げる

と、たくさんの魚を上げられるという寸法です。枝縄の餌に魚が食いつく様子は、さながらパン食い競争です。

もう少し詳しく見ていきましょう。幹縄には沢山のブイが等間隔で取り付けられており、ブイとブイの間を一鉢と呼びます。一鉢は約500メートルあり、間には13本の枝縄が取り付けられています。枝縄にはいくつか種類があり、決まった間隔で混ぜて使います。

仕掛け全体では130鉢あり、その長さはなんと約70キロ！これは浜田一大田間に相当します。その間にぶら下がる針は約1700もあります。

これだけの針を仕掛けるのだから、さぞ多くの魚が捕れるのだろうと思いきや、実際に上がってくる魚は約1トン、40～60キロのマグロ20匹分程度です。

すべてが利用できるわけではありません。市場価値の低い魚もあり、せっかくかかっても途中でサメやシャチに食べられてしまうことも。

とはいえ、操業全体ではなかなかの漁獲量になりますし、何よりその中で得られる知識と経験はまさしくプライスレス。きっと私達にとってもかけがえのない経験となることでしょう。

また、市場価値が低く、店頭であまり見かけない魚も私のような魚好きにとっては神秘の宝庫。次回は、これまでで捕れた珍しい魚

を取り上げたいと思います。（浜田水産高海洋技術科2年・関蒼太朗）